



市内のなかまたち 小学校1年生 4,631人 2年生 4,587人 3年生 4,776人 4年生 4,916人 5年生 4,892人 6年生 4,806人 (平成20年5月1日現在)

みて学んで
たいけん
いざ体験!
ぼうさいがくしゅう
防災学習センター



初期消火体験コーナー

消火器を使って画面の炎を消すことができるんだ。
消火器の使い方がわかったよ。



被災地体験コーナー

地震が起きた後のまちを再現したところに行って、
どこが危ないかを教えてもらったよ。



防災体験シアター

立体に見えるメガネをかけたら、
炎がおそってきてびっくりしたよ。



小学校三年生の高橋遥
ちゃん、防災学習セン
ターに行って、い
ろんな防災体験を
してきました。
でも、防災って何をし
たらいいのかな? 消防士
のひろゆきおじさんに聞
いてみました。



修了証をもらったよ。

今日、お姉ちゃんひろゆきおじちゃんの家族といっしょに防災学習センターへ行きました。
ひろゆきおじちゃんは消防士。新しくできた消防局で働いていて、そこに防災学習センターができたんだって。
センターには、防災用品を展示している「防災学習ゾーン」と立体映像で災害について学ぶ防災体験シアターや地震を体感できる「防災体験ゾーン」があったよ。
いっぱい体験できて、知らなかったことも楽しく学べたよ。

○月×日
△曜日
天気

つづく

しょうぼうし 消防士さんに

き 聞いてみよう!



遥ちゃんのおじさん新田浩之さんは消防士。
みんなが安心して暮らせるように、消防局で働
いています。
遥ちゃんは、災害が起きたときに備えて、日
ごろから何をしたらいいか聞いてみました。



防災学習センターは、
なんでつくられたの？

強い雨や風、洪水、地震、火事などの災害が起きたときに備えて、体験しながら防災を学べる施設としてつくられたよ。

ぜひたくさんの人に体験してもらいたいなあ。

日ごろからどんなことに気をつけたらいいの？

いつ災害が起きてもあわてず行動できるよう、家族で避難場所や連絡方法を確認しておこう。

避難場所は近くの小・中学校だよ。

でも避難場所に行くための道が通れなくなることもあるから、二か所の避難場所を決めておいた方がいいね。

家の周りや住んでいる地域を歩いて、危ない場所がないか見ておこう。

プロスポーツ選手が愛用

山本光学のサングラス

東大阪市は家電から航空部品までさまざまな製造工場が集まっているモノづくりのまち。その中でも山本光学株式会社(長堂三)は、紫外線の害



をおさえた安全なスポーツ用の眼鏡・サングラスなどを作っています。

スポーツ用サングラスは、プロゴルファーの石川遼さん(写真)やマラソン



選手野口みずきさんなど多くのスポーツ選手に愛用されています。身近なところで作られた製品が北京オリンピックで活躍するかも。

AEDで命を救え!

学校や駅に置いてあるAED。なんのために使うか知っていますか？

AEDは、心臓が止まってしまったときに電気ショックを与える器械です。AEDの使い方を覚えておくために、家族で救命講習会を受けましょう。救命講習会は、大人十人以上集まれば消防職員がその地域へ来てくれま

す。また定期的に近くの消防署でも行っています。

電気ショックの必要があるときはAEDが判断してくれます。



災害が起きたらまず自分の身を守ることが大切です。きみたちもできることから始めよう。

「防災学習センター」

消防総合庁舎の三階と四階にあります。

●開館時間 午前9時30分～午後5時

●休館日 月曜日(月曜日)

●祝日のときは翌日

●ところ 稲葉一ー九

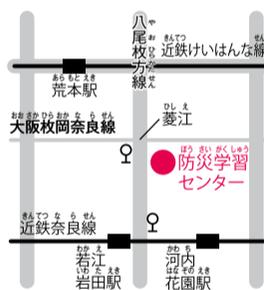
(近鉄奈良線若江岩田駅から徒歩北へ約六百)

●電話 072(966)

9998

●災害に備えるために私にもできることってあるかな。

いざというときには近所の人たちとの協力が必要だよ。地域の防災訓練などに参加してみよう。



ゴーヤーを育てて 学校を涼しくしよう!

5月28日、英田北小学校の二年生百八十九人が「グリーンカーテン」を作るため、ゴーヤーの苗を植えました(写真)。

食べ物育てることの大変さや環境について学んでもらおうと、グリーン農業協同組合がゴーヤーの苗や土などを市立小学校六校に贈ったものです。

校舎の壁に鉄製のパイプを立てかけ、その間にネットを張り、つるが成長してからまれば「グリーンカーテン」になる仕組み。ゴーヤーはワリ科のつる性植物で、壁を覆

うことで強い日差しをさえぎるだけでなく、葉っぱからの水分で室温を下げる効果があります。みんなで植えたゴーヤーの苗は、8月ごろに壁いっぱいにつるが伸び、9月には実が収穫できる予定です。



夜の闇を照らす命の光 ホタルが飛ぶ小学校

最近見ることが少なくなったホタルの姿を取りもどそうと、加納小学校では、敷地内にホタルが

生息できる環境を再現したホタル池を作ったよ。このホタル池は、加納小学校や地域の住民、環境を守るために取り組んでいる恩智川水辺再生会議などと協力して作ったんだって。

6月13日、ホタルが生息する環境を知ってもらい、間近で見てもらおうと「ホタルまつり」を開催。約二千人の住民が訪れ、校舎の敷地内に張られたネットの中でいくつもの光を放つホタルの舞を楽しんだよ。



ホタルの成長を見守るエコ委員の五年生

ホタルを飼育する「エコ委員会」を発足。毎日水温を測ったり、ホタルのようすを記録したりと熱心な飼育のおかげで、今年初めて、卵からかえ

た加納産のゲンジボタル約三百匹が成虫になったよ。